

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 98
September
2014

International University of Health and Welfare

平成26年度

関連職種連携ワーキング報告会
関連職種連携実習

関連職種連携教育

第18回

大田原キャンパス運動会

第3回

福岡キャンパス・

大川キャンパス合同運動会

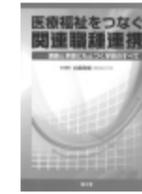


平成26年度

関連職種連携ワークショップ報告会

関連職種連携実習

本学では、患者さんや利用者の方を中心に各職種が連携し、質の高い医療やケアを提供できる人材を養成するために、連携技能の修得を重視した「関連職種連携教育」を行っている。これは、「関連職種連携論」(講義)、「関連職種連携ワークショップ」(問題解決型体験学習)、「関連職種連携実習」(臨地実習)へと段階的に進む本学独自のカリキュラムである。



関連職種連携ワークショップ報告会

「関連職種連携ワークショップ」は問題解決型体験学習で、今年度は全学科から合計九四六名の学生が履修登録した。学科混成の一チーム二グループ(二チーム一・二名程度)で七五チームを編成し、各チームにチューター教員が一名つき、与えられた事例について、解決方法と職種間連携のあり方について討議した。

八月二日(八日)、「関連職種連携実習」が行われた。「関連職種連携教育」の最終ステップとなるこの実習では、「関連職種連携ワークショップ」と同様に学科混成チームを編成。このチームで病院や福祉施設に向いて、実際の患者さんや利用者の方を対象に五日間の実習を行った。今年度は全学科から一六二名の学生が一八のチームにわかれ、本学の附属病院や関連施設など一三の施設に出向いた。



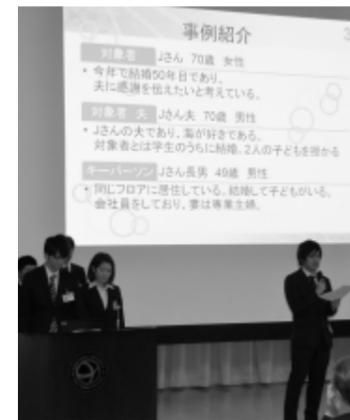
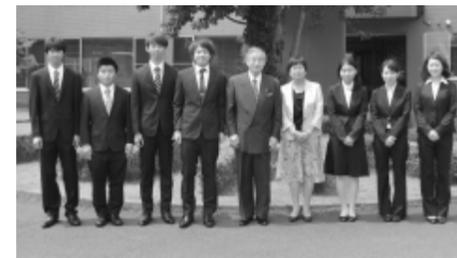
●チームの一員として発表する実習生

て、各教室から投票により選出された各事例代表、電子カルテ代表の一六グループが三教室に分かれて発表を行った。

チーム 51-B

NS3年 園田泰史、PT3年 掃部関裕、ST3年 坂部友里香、RT3年 野上彰久、SHM3年 五江潤祐、PS3年 鈴木香菜子、PS3年 吉田望帆 (担当教員: 瀬戸口ひとみ)

優秀賞



●対象事例は脳梗塞で右片麻痺のある70歳・女性

その後、各教室から優秀賞が選出された。会場をF101教室に移して表彰式が行われ、続いて、優秀賞グループと電子カルテグループの発表、さらに、今年度から新設された英語チームによる発表が行われた。

チーム 92-B

NS3年 三反崎亜美、PT3年 関健吾、OT3年 渡辺遥、SHM3年 大石彩花、SHM3年 大垣晴香、PS3年 中村鮎美 (担当教員: 下重里江)

優秀賞



●対象事例はアルツハイマー病の72歳・男性

チーム 11-A

NS3年 大山千春、PT3年 田野勝也、ST3年 内山紗希、RT3年 佐藤詩歩、SHM3年 鈴木侘奈 (担当教員: 郷間悦子)

優秀賞



●対象事例は脊髄損傷の30歳・男性

関連職種連携実習

実習先では、まず他職種の現場を訪れることから始まる。これにより、他職種への理解を深めるとともに、チームが担当する患者さんや利用者の方の情報を収集する。これに基づいてアセスメントを行い、結果をサマリーにまとめた後、治療計画やサービス計画を作成した。



実際の患者さんを対象に、病院の現場で働くスタッフとのカンファレンスに参加し、本物の職種間連携を体験した

最終日には、担当の医師や専門職とともにカンファレンスに参加し、チームでまとめた治療計画やサービス計画を発表した。ここで出された意見や質問を吟味すること、計画案はより現実的なものとなっていく。まさしく本物の「職種間連携」の体験である。



●国際医療福祉大学三田病院で実習に臨んだ2チーム。



●関連職種連携実習報告会で、実習を行った施設の指導者から質問を受ける

(大田原キャンパス) 広報室 金井雅之

2.3 特集1 関連職種連携教育

関連職種連携ワークショップ報告会 / 関連職種連携実習

4.5 特集2 運動会 ●大田原キャンパス

●福岡キャンパス・大川キャンパス合同



キャンパスレポート

- 7 第21回 福岡キャンパス / 第35回 大川キャンパス
8 第31回 小田原キャンパス
9 第5回 大学院 / 第13回 塩谷看護専門学校

トピックス

- 10 矢崎総長と須藤特任教授が春の叙勲受章者に選ばれました / 矢崎義雄総長の瑞宝大綬章受章をお祝いする会が開催されました / 世界作業療法士連盟大会 / 日本作業療法士学会が開催されました
11 ミャンマー国際医療シンポジウム開催のご報告 / ミャンマーの国立3大学学長が三田病院および大田原キャンパスを訪問
12 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・奨学生認証式のご報告 / 国際医療福祉大学年間成績優秀賞表彰式 / IUHW奨学金授与式のご報告
13 大田原キャンパス「知事と語ろう! とちぎ元気フォーラム」開催 / IUHWボランティアセンター「第2回 千年希望の丘植樹祭2014」に参加 / 視機能療法学科「とちぎロービジョンネットワークフォーラム」に参加 / 学生相談室 講演会「共感を生み出す脳内メカニズム」開催
14 第6回日本ハンガリーポーランド外科学会 / 大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科「医療福祉学部フォーラム」開催 / 薬学科「実務実習宣誓式」開催 / 教養総合科目「将棋で養う社会力」開講
15 OPST部「キャンドルナイト」開催 / 2013年度卒業生国家試験報告 / 成田事務所開設および成田看護学部、成田保健医療学部新築工事起工式のご報告

施設インフォメーション

- 16 国際医療福祉大学熱海病院 / 国際医療福祉大学病院
17 国際医療福祉大学塩谷病院 / 国際医療福祉大学三田病院 / 山王病院 / 化学療法研究所附属病院

- 18 同窓会通信
19 生涯学習のご案内

20 学生投稿ページ

応援合戦

応援合戦の優勝は看護学科



○看護学科



●薬学科



●言語聴覚学科



●理学療法学科



●医療福祉・マネジメント学科



●視機能療法学科



●放射線・情報科学科



●作業療法学科

18th 2014 May 31 大田原キャンパス

運動会

5月31日、大田原キャンパスで

18回目の運動会が開催された。晴天で気温はかなり上昇したものの、風はなく、砂埃に悩まされることのない絶好のグラウンドコンディションに恵まれた。

総合優勝は理学療法学科、応援合戦の優勝は看護学科といずれも連覇が続いたが、競技で競り合う学科、応援合戦で趣向を凝らす学科が目立つようになり、年々、その差が縮まっているようである。



●選手宣誓



●放送係



実行委員長は上武貴大さん (医療福祉・マネジメント学科2年)



総合優勝に輝いた理学療法学科



借り物競走

見つけた!



朝zipみてる人



バットdeグルグル



学科対抗リレー

●撮影協力は写真部

合同運動会

3th 2014 May 17 福岡キャンパス/大川キャンパス

5月17日(土)、今年で3回目となる福岡看護学部、福岡保健医療学部の「合同運動会」が大川キャンパスのグラウンドにて開催された。約1,000名の学生が集結し、8チーム対抗の大運動会となった。(学生係 江頭絵美)
※今年から、1・2年生のみの参加

総合優勝は
理学療法
学科2年



●実行委員



●応援合戦

応援合戦の優勝は
看護学科1年
Bチーム



●ラジ体操



●綱引き



●ランチタイム



●障害物競走



●斉藤ひさ子学部長からの講評



●選手宣誓



●大玉トラベラ



●ムカデ競走



●学生対抗リレー

第21回 福岡 キャンパスレポート

バレーボールサークルが 第九回全国ミックスバレー ボール全国大会に出場決定し、 部に昇格

福岡看護学部バレーボールサークルが六月一五日に開催された第二回福岡県六人制バレーボール大会において、初出場で見事準優勝を勝ち取った。準優勝に驚きながらも、賞状をもって報告に来た時の表情は喜びに充ち溢れていた。以前より、日本精神科看護協会福岡県大会三年連続出場や交流戦出場の実績を重ねてきたことから、悲願の「部」に昇格することが七月に確定し、連絡を受けた部員たちはユニホームを作成して大会出場への気持ちを新たにしていた。



●初出場・準優勝の快挙を達成し、部への昇格を手にした

今後は、一二月に愛知県で開催されるミックスバレーボール大会全国大会、日本精神科看護協会福岡県大会、ビーチバレーボール大会に出場予定である。全国大会優勝をめざし、学業やアルバイトの合間を縫って練習しており、活躍が楽しみです。(助教 上田智之)

【グループ関連病院説明会

新学期が始まって早々の四月一八日、今年度四年生となった三期生と、グループ関連施設に就職した卒業生との交流会を兼ねた、グループ関連病院説明会が行われた。当日は、福岡県内の施設からはもちろん、東京、熱海からも病院関係者および福岡看護学部卒業生が来校し、全体会でそれぞれの施設の施設紹介が行われ、四年生たちが真剣な表情で聞き入っていた。



●先輩の生の声を聞く4年生

全体会の後は、昼食会兼交流会が催された。食事をしながら先輩たちと談笑し、食事が終わった後も個別に質問をするグループがあちらこちらに見られ、就職活動を控えた四年生たちの関心の高さがうかがえた。人生初めての就職活動をする学生がほとんどであり、まだまだ着なれないリクルートスーツに身を包み、不安でいっぱいながら、一歩ずつ真摯に社会人への道を歩んでいこうとする学生たちに朗報をもたらされる日を心待ちにしたい。お忙しい中、福岡キャンパスまでお越しくださいました皆さまに厚く御礼申し上げます。(入試広報部 藤田祐子)

第35回 大川 キャンパスレポート

九州地区リハビリテーション 臨床教学共同研究大会

七月六日、福岡保健医療学部(大川キャンパス)大講義室で国際医療福祉大学・高邦会グループの「九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会」を開催し、グループの臨床および教育施設のリハビリテーション職員や教員、約二六〇名が参加した。この大会は、



●濱本邦洋教授



●永井良治准教授



●福井恵子助教

若手職員の教育、研究の推進を目的としたもので、今年で四回目を迎えた。まず、大会長である柳川リハビリテーション学院理学療法学科の横尾正博学科長による挨拶と福岡保健医療学部の辻貞俊学部長による研究会代表挨拶で幕を開けた。

その後、高木病院の鶴貝亮太さん(理学療法士)、やながわ訪問看護ステーションの柳原智子さん(作業療法士)、本学言語聴覚学科の福井恵子助教が研究発表を行った。続く卒業セミナーでは、柳川リハビリテーション病院の小池文彦副院長が「高次脳機能障害の理解とリハビリテーション」をテーマに講演。今後、リハビリテーション医療従事者は従来の治療法や知識を着実に学びつつ、一方で既存の概念にとらわれないこととなく、再生医学やロボット工学などの多職種との交流を深めながら、高次脳機能の働きを捉えてほしいと締めくくった。



●辻貞俊学部長

(九州地区広報室 帆足リエ)

小田原

第31回 キャンパスレポート

【ときめき国際学校】

小田原市とオーストラリアのマントリー市は友好都市の関係であり、両市は相互交流事業として「ときめき国際学校」を行っている。この事業のひとつが、マンリー市の中・高校生が小田原市を訪れ、ホームステイをしながら、小田原市の中・高校生と日本文化体験を通じて交流するというプログラムである。このプログラムの中には、小田原キャンパスを訪れ、本学の学生と交流をするというものがある。本学の学生としては、生の英語に触れる絶好の機会であり、普段の英語の学習成果を確認する貴重な時間となる。

今年度は、七月一日にマンリー市の中・高校生一九名をお迎えすることになり、各学科の特徴を生かした体験を準備することになった。看護学科は妊婦体験と高齢者体験を、理学療法学科はモーションキャプチャーの体験を、作業療法学科は日本の伝統的な遊び（紙ひこうき、紙ずもう、福笑い）をそれぞれ準備した。

最初は、緊張からか、なかなか思うように話せない本学の学生たちだったが、準備した体験や教員のサポートを通して、マンリー市の中・高校生たちと英語での会話を笑顔で楽しんでいった。

のが印象的だった。

(総務課 高久晃)

【旧小田原城内高等学校跡地のグラウンド・部室棟の使用を開始】

七月一日、小田原保健医療学部の開設当初より、学生から強い要望があったグラウンドと部室棟がいに使用開始となった。



●ネットの先には、相模湾が見える

場所は、小田原キャンパスから徒歩一〇分ほどの小高い丘の上にある旧神奈川県立小田原城内高等学校跡地で、四月から改修工事に着工。テニスコート、体育館に先行して、グラウンドと部室棟の使用が開始となった。グラウンドの端からは箱根連山の頂、南西方向を見ると、相模湾を眺めることができる。

●部室棟全景

学生団体では、現在主に軟式野球部が夏期休暇中に利用していて、今までグラウンドがなく、十分な練習ができなかった学生団体にとっては、この上ない環境となった。

部室棟は、グラウンドに隣接しており、一九室の部の



●練習準備を行う軟式野球部員たち

室を備え、一階部分にはシャワー室も完備している。運動後のリフレッシュ環境も万全だ。

今後の予定では、工事および埋蔵物調査が順調に進めば一〇月にテニスコート(三画)、二〇一五年の四月に体育館が使用可能となり、二〇一六年の四月には新校舎が完成する。



●キャッチボールで肩を温める。奥は代表の理学療法学科2年今井伸一さん

【オープンキャンパス開催】

小田原キャンパスでは、八月二日・六日・一七日にオープンキャンパスを開催した。

今年も猛暑日の中での開催となったが、高校生や保護者、学校関係者等多くの参加者で賑い、大勢の人が医療福祉の世界を体感した。



●学生の説明を聞く北島政樹学長

今年のオープンキャンパスでは、大学紹介に始まり、二〇一五年年度の入試概要説明や有名予

備校による入試対策講座、先輩からの受験アドバイスなど入学試験に関するさまざまな情報を提供したり、在校生が「関連職種連携教育」や「海外保健福祉事情」で学んだこと、体験談を参加者の前で発表したりした。また、各学科においては、教員や数多くの学生ボランティアが、体験入学で疑似体験コーナーを行うなど、学生生活の紹介や受験相談など趣向を凝らしたイベントが催された。在学生は日頃の学習成果をわかりやすく丁寧に伝え、参加者も熱心に説明を聞きながら興味深そうに体験していた。

参加者からは、「海外研修に興味があり海外保健福祉事情」の学習発表はとても参考になった」、「先輩からの受験アドバイス」に参加して、受験の不安もがらばらうという気持ちに変わりました」、「優しい先生や先輩たちとたくさん話ができて、この大学で勉強したい気持ちが強くなりました」などうれしい感想が数多く寄せられた。



●学生のマッサージを受ける参加者

(学務課 学生募集広報係 今井清健)

大学院

第5回 キャンパスレポート

現在大学院には、大田原・東京青山・小田原・福岡の四キャンパスあわせて三二人の留学生が学んでいる。彼らの出身国は、中国、韓国、ミャンマー、ラオス、タイ、ベトナム、キルギス、カンボジア、インドネシアの九か国に及び、また、バックグラウンドも多様である。医師や看護師として働いていたが、母国の公衆衛生や理学療法、作業療法等の向上に努めたいと考えている留学生もいれば、母国で将来医療施設や福祉施設の経営に携わりたいと考えて、医療経営管理分野や医療福祉分野で学んでいる留学生もいる。出身国や所属分野は違っても、それぞれが熱い思いや夢を抱えて学んでいる。

大学院では、こうした留学生を応援するためにさまざまな企画を実施している。例えば、東京青山キャンパスでは、今年から二週間に一度昼休みに空き教室を使って「留学生サロン」を開催している。ここでは、留学生や日本人学生、教職員がお弁当を持ち寄って、大学院での研究や日常生活のほか、留学生の出身国の医療事情や生活習慣等について自由に情報交換を行っている。

また、八月八日には新しい試みとして大田原・東京青山キャンパスの留学生を対象として「けやき園留学生対象施設見学会」を実施した。これは本学

の関連施設の特別養護老人ホーム「新居けやき園」を訪問して、日本の高齢者介護施設や介護サービスについて学ぼうというものである。中国、キルギス、ミャンマーの計七名の留学生が参加して、施設見学のほか、車椅子や機械浴等、さまざまな福祉機器を体験した。

参加した留学生からは、「私の国にも高齢者介護施設がありませんが、こういう点がまったく違います」といった感想や「利用者の費用は誰が払うのですか?」、「施設職員はどのような教育を受けているのですか?」等、施設の職員に次々と質問を投げかけていた。半日程度の短い時間だったが、留学生は皆充実した時間を過ごしたようだ。



●さまざまな車椅子を体験



●施設職員から機械浴の説明を受ける留学生たち

今後も留学生を応援するためにさまざまな企画を実施していきたい。そのなかには、留学生と日本人学部生・大学院生と一緒にできるものもある。留学生と交流したい方、他の国の医療福祉事情についてもっと知りたい方はぜひご参加ください。

(大学院医療経営管理分野 (国際委員) 岡村世里奈)

塩谷看護専門学校

第13回 キャンパスレポート

【学校から見える風景】

学校のある矢板市は、高原たかはら山を背にした田園地帯にある。おいしい水と空気、豊かな自然の中で三年間「看護」を学んでいる。一年次に学ぶ「環境論」では「水・空気・自然と人間の関わり」について学び、講義の一環で学校周囲を講師と共に散策し身近な環境に目を向けている。

校歌の中に「高原・八沙の花・内川」という言葉が盛り込まれている。学校の北側に見える「高原山」に広がる八方ヶ原に行くと、季節折々の花が楽しめ、学校の窓から見える山の姿からも季節の変化を知ることができる。「八沙の花」は、ヤシオツツジ。矢板市内の長峰公園では満開の桜に続き、色鮮やかな見事な花を咲かせている。「内川」は、高原山から学校西側を流れ荒川に合流していく。豪雨による増水もあったが、スポーツ大会の休憩時間に学生たちと川岸に座り、いろいろな話に盛り上がったことも心むむい思い出である。



●キャンパスから高原山を望む

看護学実習は、学習の大半を占める。一年次末の基礎看護学実習に始まり、三年次の領域別実習六領域および統合実習まで、多くの患者さん、実習施設のご協力をいただきながら実施している。今年度もゴールデンウィーク明けから三年生の領域別実習が始まった。できるだけ学生が自律して実習参加ができるように指導者・教員共に指導していくが、臨地実習における患者さんからのダイナミックな学びは、学生の看護に対する考えを深め、看護師としての大きな成長につながっている。やはり実習での迷い、悩み・不安そして喜びが、看護師としての喜びにつながる。現在実習中の学生たちも、多くの先輩に学ばせていただいていることを実感し、卒業・国試に向けて全力を注いでいくと信じている。



●領域別実習に臨む3年生

(教務部 加藤美生子)

矢崎総長と須藤特任教授が春の叙勲受章者に選ばれました



●晴れ渡る佳き日に、瑞宝大綬章を身につけて

四月二十九日、平成二六年春の叙勲受章者が発表され、本学の矢崎義雄総長が瑞宝大綬章の受章者に、また本学評議員会議長の須藤正彦特任教授が旭日大綬章の受章者にそれぞれ選ばれ、大綬章等勲位親授式が五月九日に皇居で執り行われた。瑞宝大綬章は「国家または公共に對し功勞があり、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方」に、旭日大綬章は「国家または公共に對し功勞があり、功績の内容に著目し、顕著な功績を挙げた方」にそれぞれ授与される勲章。

前国立病院機構理事長の矢崎総長は、東京大学医学部教授、同医学部長、日本内科学会理事、日本循環器学会理事長、日本医学会副会長、第二八回日本医学会総会会頭などを歴任され、現在は国立国際医療研究センター名誉総長、独立行政法人国立病院機構名誉理事長も務められている。

平成二四年一二月まで最高裁判所判事を務められた須藤特任教授は、弁護士業務を行う一方で、本学創立と同時に特任教授に就任され、また、東京弁護士会副会長、最高裁判所司法研修所民事弁護教官、日本弁護士連合会綱紀委員会委員長、足利銀行社外取締役などを歴任された。矢崎総長と須藤特任教授からのメッセージをご紹介します。

◆ ◆ ◆
◆ ◆ ◆
◆ ◆ ◆

矢崎義雄総長の瑞宝大綬章受章をお祝いする会が開催されました

七月二十八日、矢崎義雄総長が春の叙勲にて瑞宝大綬章を受章された記念祝賀会をホテルニューオータニで開催した。

この叙勲は、公的な要職を数多く歴任されてきたことに加え、多年にわたり保健衛生の向上に尽力されたこと、内科学および循環器学の分野において優れた業績をあげ、医学の発展に貢献された功績などが認められたもの。

◆ ◆ ◆
◆ ◆ ◆
◆ ◆ ◆



●お祝いに駆けつけた370名以上を前に謝辞を述べる矢崎総長



●瑞宝大綬章と勲記

祝賀会は、本学の高木邦格理事長をはじめ、東京大学の宮園浩平医学部長、東京大学病院の門脇孝病院長、国際医療研究センターの春日雅人理事長、国立病院機構の桐野高明理事長、東京医科歯科大学の田村哲夫理事長の六名が発起人となり、各大学・施設関係者、親交の深い方々など三七〇名以上が出席された。結びには矢崎総長より、「このたびの栄誉は、ひとえに皆様方の多年にわたるご支援の賜物であり、今後も職務に精進してまいります」と謝辞を述べられた。

(東京事務所 総務企画部 中田英臣)

ミャンマー国際医療シンポジウム開催のご報告



本学大学院および附属の研究機関である国際医療福祉総合研究所が主催し、厚生労働省、文部科学省、外務省、朝日新聞社の後援を得た「ミャンマー国際医療シンポジウム」を七月六日にホテルオークラ東京(東京都港区)で開催し、約三七〇名が来場した。

同シンポジウムには、駐日ミャンマー大使館のキン・マウン・テイン特命全権大使にご臨席いただいたほか、ミャンマー



●キン・マウン・テイン 駐日ミャンマー大使



●挨拶する北島学長

ーからは、ミャンマー保健省のテイン・ティン・ティ副大臣、同保健計画局のエ・ヌエ・ウ局長、本学と学術交流協定を締結している国立ヤンゴン第一医科大学のテック・カイン・ウイン学長、国立ヤンゴン看護大学のミヤット・タンダー学長、国立ヤンゴン医療技術大学のナイン・ウイン学長にご参加いただいた。



●左から、エ・ヌエ・ウ保健計画局長、テイン・ティン・ティ副大臣、新原浩朗審議官

また日本側からは、厚生労働省の佐藤敏信健康局長、東京大学医学系研究科国際保健政策学部の渋谷健司教授(JIGH理事長)、厚生労働省の新原浩朗大臣官房審議官(内閣官房健康・医療戦略室次長)、国際協力機構(JICA)人間開発部の戸田隆夫部長、一般社団法人日本医療機器産業連合会の中尾浩治会長(テルモ株式会社代表取締役会長)、日本製薬工業協会の内藤晴夫副会長(前日本製薬団体連合会会長)、エーザイ株式会社代表執行役CEO、本学から北島政樹学長、矢崎義雄総長、国際医療福祉総合研究所の中村秀一専任教授が出席した。

当日は、北島学長、ミャンマー大使、佐藤健康局長からそれぞれ挨拶があったのち、ミャンマーの保健事情や医療提供体制についてそれぞれ副大臣と保健計画

世界作業療法士連盟大会・日本作業療法士学会が開催されました

六月一八日から二一日まで横浜パシフィコ(神奈川県横浜市)にて、第一六回世界作業療法士連盟(WFOT)大会・第四八回日本作業療法学会が開催された。WFOTとは、世界各国の作業療法士協会を代表し、作業療法の振興を担う公的国際機関。四年に一度開催され、今回アジア初の開催となった同大会は、本学の杉原素子副学長が日本作業療法士協会会長時代に誘致に成功したものだ。



●主催者として挨拶する高木理事長

大会に先立ち六月一六日、横浜市内のホテルにて、全国リハビリテーション学校協会(理事長・本学の高木邦格理事長)主催による懇親会が開催された。WFOTのE. シャロン・プリントネル会長、日本作業療法士協会の中村春基会長をはじめ三四か国の代表四九名に加え、本学から北島政樹学長、桃井真里子副学長らが参加。高木理事長、中村会長の挨拶に続き、プリントネル会長の乾杯で開会。各国代表者らが和やかに親睦を深めた懇親会は、杉原副学長らによる三本締めでお開きとなった。

(東京事務所 総務企画部 榎真実)

ミャンマーの国立三大学学長が三田病院および大田原キャンパスを訪問

「ミャンマー国際医療シンポジウム」開催に先立ち、シンポジウムに参加いただいたヤンゴンの国立三大学の各学長をはじめとして合計一四名の教員の皆様を、シンポジウム開催日を挟み一六日間に渡って日本へ招聘した。滞在期間中には、日本の医療制度について学んでいただく研修プログラムの一環として、日本の社会保障制度や病院経営、障害者施策等に関する講義を本学の教授陣が行ったほか、本学の附属病院やグループ関連福祉施設等の視察を行った。



●ヤンゴン医療技術大学学長の講義に聞き入る学生たち

また、大田原キャンパスにおいてはキャンパス視察に加えて、本学学生を対象として三大学学長から、ミャンマーにおける医療事情等に関する講義を行っていただいた。

ミャンマーへは今年度初めて、海外研修「海外保健福祉事情」により本学学生を派遣することとなり、今後、教員や学生の更なる相互交流が期待される。

(東京事務所 総務企画部 加瀬文彦)

あいおいニッセイ 同和損害保険株式会社

奨学生認証式のご報告

六月一日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で、同社の鈴木久仁社長、真鍋洋取締役副社長執行役員、田村悟経営企画部長、森下誠広報室長、本学の北島政樹学長、矢崎義雄総長、佐藤禎一学事顧問、福島道子学生部長、細小路岳史事務部長らが列席し、平成二六年年度の奨学生認証式が行われた。

今年度は七名が選ばれ、鈴木社長より、「ぜひ、専門性の高い知識・技術を習得し、本当のエキスパートになってください」とエールが送られた。

これに対し、北島学長は、一八年間で延べ一五〇名の学生に奨学金をいただいたことに謝辞を述べるとともに、学生に対して「一層勉学に励んで、医療福祉専門職のリーダーとなってください」と激励した。



●前列は、憧れの医療福祉専門職をめざす奨学生たち

(東京事務所 総務企画部)

国際医療福祉大学 年間成績優秀表彰式

平成二六年度年間成績優秀賞の表彰式が各キャンパスで行われ、受賞者に表彰状が授与された。副賞として、授業料が最大五〇％減免される。

- 保健医療学部(六月一日実施)
 - 看護学科 四年 津久井沙耶香、
 - 三年 佐々木成美、二年 角田千秋
 - 理学療法学科 四年 伊藤南、
 - 三年 高岡正宗、二年 原島由理子
 - 作業療法学科 四年 米田歩、
 - 三年 遠藤蒼、二年 鈴木史織
 - 言語聴覚学科 四年 栗野菜、
 - 三年 高野明香、二年 宇井里実
 - 視機能療法学科 四年 野上豪志、
 - 三年 村松里美、二年 高津戸佑騎
 - 放射線・情報科学科 四年 嘉納匠、
 - 三年 丸山知都、二年 藤井ひかり
- 医療福祉学部(六月一日実施)
 - 医療福祉・マネジメント学科 四年 菅野歩美、
 - 三年 岩佐優香、二年 松本佳菜
- 薬学部(六月一日実施)
 - 薬学科 六年 手塚千裕、
 - 五年 沼尾雪絵、四年 志賀由佳、
 - 三年 佐久間洋志、二年 大田美香
- 小田原保健医療学部(七月三〇日実施)
 - 看護学科 四年 佐々木智子、
 - 三年 加瀬千恵、二年 神田具子
 - 理学療法学科 四年 熊谷公美、
 - 三年 大松峻也、二年 浅賀和人
 - 作業療法学科 四年 永田帆乃香、
 - 三年 長嶋早紀、二年 土肥咲喜子
- 福岡看護学部(六月七日実施)
 - 看護学科 四年 山添真央、
 - 三年 平野真結、二年 太島美咲

- 福岡保健医療学部(六月二日実施)
 - 理学療法学科 四年 武田津香紗、
 - 三年 速水慶太、二年 湯地真子
 - 作業療法学科 四年 石井亜美、
 - 三年 小柳ひろ、二年 片桐舞子
 - 言語聴覚学科 四年 二宮菜帆、
 - 三年 井上美里、二年 吉崎杏奈
 - 医学検査学科 二年 川村和光

(学生課 松本典子)

IUHW奨学金授与式のご報告

六月十七日、山王病院の山王ホールにて、平成二六年度IUHW奨学金授与式が執り行われた。式には、駐日タイ王国大使館のシントン・ラーピセートパン公使、駐日ミャンマー連邦共和国大使館のキン・マー・ティニ二等書記官、アジア婦人友好会の高村治子会長、沼田恭子副理事長らにご臨席賜った。

IUHW奨学金制度は、医療福祉分野の人材育成に寄与することを目的に、在学中の学費、教材費、交通費、住居費、生活費をフルサポートする制度。これまでに延べ二〇名に授与された。

奨学生から「日本で学んだことを持ち帰り、母国の医療福祉の発展に貢献したい」と抱負が語られ、天野隆弘上席副大学院長より奨学金証明書を授与された。高村会長のほか、タイ大使館公使、ミャンマー大使館書記官から謝辞があり、人材育成の重要性が確認された。



●授与式の参加者一同で記念撮影

- 今年度の奨学生
 - コムサック・シムプラングさん(タイ男性)
 - 医療福祉学専攻 医療福祉経営学分野
 - ヒョーバ・バミンさん(ミャンマー女性)
 - 医療福祉学専攻 理学療法学分野
 - ヤミン・エイさん(ミャンマー女性)
 - 医療福祉学専攻 作業療法学分野
 - ミン・タン・アウンさん(ミャンマー女性)
 - 医療福祉学専攻 医療福祉国際協力学分野
 - ワイン・ハンダーさん(ミャンマー女性)
 - 医療福祉学専攻 医療福祉国際協力学分野

(東京事務所 総務企画部)

大田原キャンパス

「知事と語ろう！ とちぎ元氣フォーラム」開催

六月二六日、福田富一栃木県知事が地域住民と意見を交換する「知事と語ろう！とちぎ元氣フォーラム」の大学生版が大田原キャンパスで開催された。

冒頭、日頃の地域貢献活動として、「黒羽盛り上げ隊」が黒羽地区における老人の生活支援について発表し、続いて、医療福祉・マネジメント学科のゼミ「那須烏山市まちづくり研究会」が那須烏山市の活性化のためのプロジェクトについて発表した。



●発表者の学生と教員が北島学長(中央)と福田知事(その右)を囲んで

続いて、事前に行った学生アンケートの内容を福田知事が紹介すると、「医療福祉分野」と「とちぎブランド創出」への関心が高いことがわかった。

(大田原キャンパス 広報室 金井雅之)

大田原キャンパス IUHWボランティアセンター

「第二回千年希望の丘植樹祭 二〇二四」に参加

五月三十一日、宮城県岩沼市で開催された国内最大級の植樹祭である「第二回千年希望の丘植樹祭二〇二四」に、本学から学生三六六名、教職員五人の計四一一人がボランティアとして参加した。

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩沼市の沿岸では、震災を風化させないため、いつまた来るかわからない震災に備えるために、津波の力を減衰させる「千年希望の丘」の整備が進められている。



●植樹のあとは、わらを敷き詰め、縄で押さえて完了

二回目の今回は、全国から集まった約七千人が、復興交付金事業で築造した丘を結ぶ園路一四〇〇mに、広葉樹を約七万本植樹した。

(IUHWボランティアセンター 中里愛)

大田原キャンパス 視機能療法学科

「とちぎロービジョンネット ワークフォーラム」に参加

七月一三日、宇都宮市総合福祉センターで「第二回とちぎロービジョンネットワークフォーラム」が開催され、視機能療法学科もロービジョンケアの担い手として学生有志とともに参加した。

とちぎロービジョンネットワークは回復困難な視覚障害の方々に対し、生活支援を行うことを目的に、眼科医、視能訓練士、盲学校、盲導犬協会など、視覚障害に関わる方々が連携して立ち上げた組織である。県障害福祉課の佐藤直久氏による福祉制度についての講演の後、新井田孝裕学科長をはじめとした眼科医師による医療相談や盲学校教員による療育相談、拡大読書器や遮光眼鏡、生活便利グッズ、盲導犬の紹介など、参加者は各ブースで納得のいくまで熱心に話を聞かれていた。



●学生によるガイドヘルプ



●拡大読書器の説明

今後視覚に携わる職種を養成する立場として、視覚に障害を持つ方々のお役に立てるよう、他職種と連携して活動を継続していく。

(視機能療法学科 准教授 小町祐子)

大田原キャンパス 学生相談室

講演会「共感を生み出す 脳内メカニズム」開催

七月二九日、大田原キャンパス学生相談室主催の講演会が開催された。

第三弾となる今年度は、認知心理学研究の第一線を行く梅田聡先生(慶應義塾大学)をお迎えし、対人援助場面でも不可欠な「共感」のメカニズムや、その機能不全とも言える「発達障害」「サイコパス」についてご講演いただいた。



●脳科学の最新の知見を紹介する梅田先生

(総合教育センター 助教 大塚尚)

第6回 日本ハンガリーポーランド外科学会

本学の北島政樹学長を会長として、一〇月二七日～二十九日、慶應義塾大学三田キャンパスで「第六回日本ハンガリーポーランド外科学会」が開催されますので、パンフレットよりご挨拶(抜粋)を紹介いたします。

日本ハンガリー外科学会
は、これまで二年毎に開催されてきました。日本での開催は、二〇〇六年、二〇一〇年に続き、今年で三回目となります。今回からポーランドが加わることで、日本、ハンガリー、ポーランドの三か国で新たなスタートを切る形となりました。

本学会では、上記三か国を中心とする世界の外科領域に関する最新情報の提供を行い、相互の意見交換を行うとともに、世界中の外科に関する諸問題を研究し、診断・治療レベルの向上をめざしております。

この会議を日本で開催することで、臨床と研究に従事するわが国の臨床医、基礎研究者がハンガリー・ポーランドの科学者と直接交流し、親交を深め、多くの情報を得るとともに、わが国から世界に向かって、外科領域に関する先進的かつ実効的な研究成果を発信する絶好の機会になることを期待しております。



大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科 「医療福祉学部フォーラム」開催

五月二四日、栃木県青年会館(コンセンター)で医療福祉学部フォーラム(これからの医療福祉に求められる人材)を開催した。桃井眞里子副学長兼医療福祉学部長の主催者挨拶に続き、パリンピックで日本人最多の二一個のメダルを獲得した河合純一日本パラリンピアンズ協会会長が「夢への努力は今しかない」というテーマで特別講演。

第三部のパネルディスカッションでは、栃木県看護協会の河野順子会長、栃木県老人福祉施設協議会の関口忠雄副会長、本学部卒業生で大田原市役所高齢者幸福課勤務の謝花裕介さん(二期生)、同じく国際医療福祉大学病院医事課勤務の田島莉菜さん(三期生)が登場。副学長長の本康弘教授をコーディネーターに、「医療、福祉、マネジメントのわかる専門職の重要性」について討議した。

小林雅彦学部長が「学科の特色と実績」を紹介した後、本学部の卒業生でシンガーソングライターのえりのあさんのトークライブ。学生時代の話や歌を通じて福祉・介護職のやりがいについて語った。

(医療福祉・マネジメント学科 准教授 中田健吾)



●医療・福祉・マネジメントのわかる専門職の重要性が議論されたパネルディスカッション

大田原キャンパス 薬学科 「実務実習宣誓式」開催

四月二四日、薬学科で今年度の「実務実習宣誓式」を開催した。これは、病院ならびに薬局での実務実習が始まる五年生がその意義を理解し、本学の学生としての誇りを胸に、医療人、社会人としての役割と責任を自覚して、実務実習に真摯に臨む決意を固めることを目的に、毎年開催しているものである。

武田弘志学部長の式辞に続き、本学のマークが入った白衣に初めて袖を通すと、学生たちの表情が一変。代表して、作元仁志さんと古賀香央里さんが宣誓を読み上げた。北島政樹学長のあいさつ、旭満里子学部長の閉会の辞をもって終了した。

この式には四年生が全員出席し、薬学共用試験に合格した先輩の姿をしっかりと目に焼きつけてこの一年間の勉学に臨む。



●「私たちは、国際医療福祉大学の学生であることに誇りを持ち、実務実習に挑みたいと思います」と宣誓を読み上げた。

大田原キャンパス 教養総合科目 「将棋で養う社会力」開講

教養総合科目「将棋で養う社会力」を今年度も開講した(五月二八日、七月二日)。「社会力」は、コミュニケーション力と知力の総合力であり、本学がめざす「共に生きる社会」の実現に必須の能力である。大学での将棋講座は、昨年度、本学が全国にさががけて始め、続いて、東京大学、大東文化大学、首都大学東京の三大学も開講するに至り、流行になりつつあるのは嬉しいかぎりである。

今年度も公益社団法人日本将棋連盟の島朗九段(初代竜王)と鈴木環那女流二段にお越しいただき、将棋技術講座、リレー将棋解説など、学生の興味を持続させつつ、しっかり考えさせる指導を行っていた。勝負におけるプロ棋士の考え、気力の維持の仕方などにも言及された。学生諸君の人生の糧にもなることと思う。佐藤禎一学事顧問、菊池哲郎総合教育センター長のご支援に感謝いたします。

(基礎医学研究センター 教授 北村義浩)



●今年で2回目となった島九段(右)と鈴木女流二段(左)の講義

大田原キャンパス OPST部 「キャンドルナイト」開催

六月九日、大学構内の広場にて、国際保健・国際協力に関心のある学生が集まり結成したボランティア団体OPST部主催による「キャンドルナイト」が開催された。今回のイベントは「省エネ・エコ・自然を大切にしよう」ということを多くの方に伝え、また人と人とが交流できる場を作ることとを目的として開催された。当日は広場内に約三百個のキャンドルを、道や丸、ハートといった形になるよう配置。大きな丸の形を作り、その中心はアカペラ・吹奏楽の演奏が行われた。キャンドルの光の中で聞く歌声・音色はとても美しく、観客からは盛大な拍手が起きた。梅雨の時期の開催となったため、直前まで天候が心配されたが予定通り実施でき、普段ボランティアに参加しない学生も数多く来場。参加者はキャンドルの中で写真撮影を楽しみ、披露された歌声・音色に耳を傾け、ゆったりとした夜の一時を過ごしているようだった。



●夕闇の中、ミニコンサートに耳を傾ける参加者

二〇一三年度 卒業生国家試験報告

二〇一三年度卒業生の国家試験の結果は、小田原保健医療学部の三学科(看護学科・理学療法学科・作業療法学科)すべてで合格率一〇〇%を達成した(看護師・理学療法士・作業療法士)。理学療法学科は、二〇一一年度から三年連続で一〇〇%を継続している。また、保健医療学部の言語聴覚学科も一〇〇%を(言語聴覚士)達成し、そのほか多くの学科で、全国合格率を大きく上回った。

合格者数においても、多くの学科が四年制大学養成校の中で全国一位・二位をマークした。保健医療学部の理学療法学科(理学療法士・合格者数九二人)、作業療法学科(作業療法士・合格者数七三人)、言語聴覚学科(言語聴覚士・合格者数七三人)が全国一位に、視機能療法学科(視能訓練士・合格者数四四人)、放射線情報科学科(診療放射線技師・合格者数一〇六人)、医療福祉学部の医療福祉・マネジメント学科(精神保健福祉士・合格者数三二人)が全国二位となった。

開学当初から続く全国トップクラスの国家試験合格率と合格者数は、学生自身の日々の努力はもちろん、教員がさまざまな工夫をこらして実施している「国家試験対策講義」や「模擬試験」、「個別指導」など、万全のサポート体制がもたらした成果といえるだろう。

成田事務所開設および 成田看護学部、成田保健医療学部 新築工事起工式のご報告

本学では五月二二日に、千葉県成田市に「成田事務所」を開設した。二〇一六年(平成二八年)四月に開学を予定している二学部五学科(成田看護学部(仮称)看護学科、成田保健医療学部(仮称)医学検査学科・理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科)の設置準備を進めるにあたり拠点を設けたものだ。

成田事務所は、京成成田駅から徒歩三分程度と、非常に利便性の高い場所を確保。校舎の具体的な設計などのハード面、カリキュラム編成などのソフト面をはじめとして、新学部の各種設置手続きが円滑に進むよう業務を遂行する。

また七月一七日には新築工事の起工式を、新設予定地である公津の杜駅前に行なった。成田市の小泉一成市長、上田信博市議会議員をはじめとする来賓の方々、本学の北島政樹学長、矢崎義雄総長、谷修一名譽学長ら関係者が見守る中、地元・



●切始(かりそめ)の儀を行う北島学長と矢崎総長

住吉神社の宮司による神事が厳かに執り行われた。

新築する校舎は、校舎棟(地上九階建)と体育館棟(地上五階建)の二棟から構成され、完成は二〇一五年一月を予定している。

本学は、「病める人も障害を持つ人も健康な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現」という建学の精神のもと、「チーム医療・チームケア」の実践に貢献し、国際都市成田市の立地特性を生かし、国際的な資質を備え海外でも活躍できるメデイカルスタッフの育成をめざす。



●成田新キャンパス校舎イメージ図(入学定員340人、収容定員1360人)



●穿始(うがらぞめ)の儀を行う小泉市長(左)と関根賢次(中)・藤田礼子(右)両副市長

【成田事務所】
住所：成田市花崎町九五九森田ビル二階
電話番号：〇四七六・八九一・一五〇〇
FAX番号：〇四七六・八九一・一五〇一

(成田事務所 小川肇、武市敦史)

(IUHWボランティアセンター 中里愛)

(東京事務所 広報部)

(大田原キャンパス 広報室 金井雅之)

(基礎医学研究センター 教授 北村義浩)

(大田原キャンパス 医療福祉・マネジメント学科)

(大田原キャンパス 薬学科)

(大田原キャンパス)

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

病院長交代のお知らせ

七月一日付で、当院の病院長が交代した。新病院長は、四月より当院の席副病院長、医療局長を務めてこられた横田俊平教授。前病院長の寺岡慧教授は、名誉病院長および国際医療福祉大学常務理事に就任された。横田新病院長の挨拶をご紹介します。



横田俊平 よこた・しゅんぺい

横濱市立大学 卒、医学博士、横濱市立大学名誉教授。前横濱市立大学医学部小児科教授、同大学院医学研究科教授、同大学医学部長、前日本小児科学会理事長、日本小児科学会認定指導医・小児科専門医、日本リウマチ学会認定指導医・リウマチ専門医、日本感染症学会認定指導医・感染症専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医。

当院は国立熱海病院を継承し、二〇〇二年の開院以来、一〇年以上の歳月を歩んでまいりました。この間、熱海、湯河原、伊東地域はもとより、伊豆半島全域の中核的病院として地域医療を支えてまいりました。医師、看護師をはじめ、リハビリテーションにあたる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士など多くの医療スタッフが充実させ、患者様に安心、安全な医療をご提供し、さらにPET・CT、MRI、核医

附属病院 国際医療福祉大学山王病院

がんの予防と早期発見をテーマにした「健康フェア二〇一四」を開催

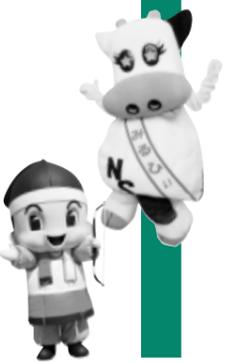
六月八日に当院で、がんの予防と早期発見をテーマにした「健康フェア二〇一四」を開催。三五〇名超の来場者があった。



●体力測定などの体験型イベントも大いに盛り上がった

開会式では、蘇原泰則病院長に続き、那須塩原市の阿久津憲二市長からは、「全都市住民良さをランキングで那須塩原市が全国で九四位、栃木県内で一位となったことは地域医療の充実と深く関わっており、国際医療福祉大学病院には今後さらに貢献してほしい」という言葉をいただいた。さらに那須郡市医師会の江部寛会長からも、「那須郡市医師会主催の市民公開講座などで、がんの予防と早期発見に対する啓発活動に協力していただいている」などと評価された。

午前の部では、当院医師による「肺がん」、「肝臓がん」、「胃がん」、「前立腺がん」などのがんに関するミ



ニセミナー、午後の部では、リハビリテーション科による体力測定やリハビリテーション・運動指導、薬剤部によるお薬相談、看護部による血圧測定、耳鼻咽喉科による聴力検査、血管外科による弾性ストッキング指導などさまざまな体験型イベントを行った。また、お昼のお楽しみコーナーでは、ボランティアによるフラダンスショーや本学学生のサークルによるジャズやハンドベルの演奏、那須塩原市と大田原市のゆるキャラ「みるひい」、「与一くん」の登場で来場者を楽しました。



●血管外科のセミナーに熱心に聞き入る参加者

来場者からは、「ミニセミナーが大変参考になり、今後も健診を続けようと思った」、「体力測定などさまざまな体験型イベントがあり、非常に楽しかった」、「今後もこのようなイベントを続けてほしい」といった声が聞かれ、大盛況のうちに終了した。

(総務企画課 小室秀明)

附属病院 国際医療福祉大学塩谷病院

「心臓と血管の健康セミナー」を開催

七月五日、当院で今年度最初となる第一回市民公開講座を国際医療福祉大学塩谷看護専門学校を会場に開催した。テーマは、「心臓と血管の健康セミナー」。当日は約二〇〇名の市民らが来場し、会場は熱気に包まれた。早川正道病院長の挨拶に引き続き、第一部として循環器内科部長の稲見茂信准教授が「心臓カテーテルってなんだろう?」と題して講演。心疾患についてわかりやすく説明した。



●講堂は約200名の来場者で埋まった

第二部では「あなたの足は大丈夫?」と題し、血管外科・外科部長の地引政利准教授が静脈瘤・むくみ・動脈硬化について、その早期診断と最新の治療法等について、ユーモアを交えて解説した。

講演後の質問コーナーでは、参加者から相次いで質問があり、両医師が丁寧に回答した。最後は大きな拍手に包まれ、大盛況のうちに閉会した。

(総務人事課 木村裕幸)

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

JCI認証取得に向けたプロジェクトを始動

昨年一二月、三田病院はJCI認証取得に向けたプロジェクトを開始した。JCI (Joint Commission International) とは、医療の質と患者の安全に焦点を当てた国際医療認証機関のことで、国際的に高く評価され、これまでにJCI認証を取得したのは世界五九か国の五三六医療施設による。一方、日本では現在わずかに一〇施設(うち病院は八施設)しか認証を取得していない。



●第4回JCIコアチーム会議

三田病院では、今年四月にJCIの掲げる一四章、約二二〇〇の測定項目に対応する二四のワーキンググループ(WG)を発足。二か月間で既に三〇回を超えるWG会議を開催し、病院の自己評価、改善活動など、活発な討議を重ねた。

現在、WGには約一〇〇人を超える職員が参画するが、来年秋の本審査までには全職員への浸透が必要だ。また主要なメンバーを集めたコアチーム会議を定期的に開催しているが、七月の会議では、外部のコンサルタントから三田病院の取り組みについて、JCIへの理解が進んでいると評価された。

(JCI事務局 三田病院)

臨床医学研究センター(東京地区) 山王病院

新棟オープンを控え 診療体制を充実

二〇一五年の年初に完成予定の新棟では、産科クリニック、ICU・NICUの新設や診察室・手術室の増設を計画しており、診療体制のさらなる充実を図る。

今年四月、前東京女子医大神経内科主任教授の内山真一郎医師をセンター長に迎えて脳血管センターを新設、介護医療対象疾患第一位の脳卒中の予防・診断・治療の総合的な診療が可能となった。



●新棟完成予想図

また整形外科では、今年四月に前日本医科大学特任教授の南和文医師、七月に同大の青木孝文医師と慶應義塾大学の中村俊康医師を迎え、三名の整形外科部長体制となった。南医師は関節と脊椎脊髄、青木医師は足と末梢神経障害、中村医師は手・肘の疾患をそれぞれ専門とし、非常勤で肩疾患が専門の米田稔医師が着任し、全身の疾患に対応可能だ。

診療体制の充実とともに隣地の新棟工事も順調に進んでおり、職員一同来春のオープンに向け、準備に勤しんでいる。

(総務課 松橋悦子)

臨床医学研究センター(千葉地区) 化学療法研究所附属病院

回復期リハビリテーション病棟 一年を経過して

当院の回復期リハビリテーション(以下、リハ)病棟は、二〇一三年七月一日に開設された。一〇月にはリハ科医師が赴任、今年四月には私が着任し、六月には三四床すべてが利用できるまでにいった。現在はスタッフ、設備ともに充実を図っており、急性期リハから在宅復帰までをスムーズに行える、よりよいリハ医療をご提供できるように取り組んでいる。また、医療相談員も一名増員し、回復期病棟入院患者様すべてにかかわり、安心して地域社会に戻っていただけるよう支援している。



●リハをテーマにしたけんこう教室を開催。ニーズの高さが伺えた

昨今、その重要性が叫ばれ、国際医療福祉大学が取り組む「チーム医療・チームケア」にあって、リハ医療はまさにその代名詞といえる。今後、最善のリハ医療を提供することはもちろん、学術的・教育的にも国際医療福祉大学の名に恥じない、日本のリハ医療を牽引できるチームをめざし努力していく。

(リハビリテーション科部長 武原格)

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ① **キャンパス** 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ② **カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③ **同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS ホームページで、大学院紹介ムービーを公開中。
大学院総合パンフレット、分野のパンフレットもダウンロード可能です。

- ホームページはこちら：<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>
- Facebookはこちら：<https://www.facebook.com/iuhwgs>
- Twitterはこちら：https://twitter.com/iuhw_grad

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL: 0287-24-3200)

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

- **理学療法分野**
第47回日本理学療法士協会 全国学術研修大会(鹿児島)、呼吸リハビリテーションの有用性・汎用性
- **作業療法分野**
第51回作業療法全国研修会(岩手)
- **言語聴覚分野**
摂食・嚥下リハビリテーションの実践
- **介護・福祉分野**
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護2013
- **医療・福祉・経営実務**
日本総合健診医学会(第42回大会) ※無料配信、
- **厚生労働省情報**
介護人材確保地域戦略会議[第1回](平成26年6月17日開催) ※無料配信
生活困窮者自立促進支援モデル事業担当者連絡会議(平成26年4月25日開催) ※無料配信
- **乃木坂スクール**
遺伝子診断・治療とその問題点、脳と心のサイエンス
- **受験講座**
ケアマネジャー受験講座
- **情報BOX**
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryuufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」<http://www.ch774.com/student.php>

主な配信番組 ● 大学授業・副教材
教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、日本近現代史、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 98号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

【大田原キャンパス】 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
【小田原キャンパス】
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500
【福岡キャンパス】
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

【大川キャンパス】
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

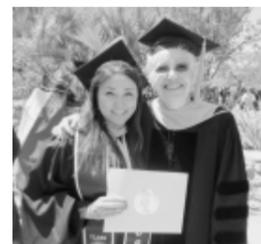
Vol.4

同窓会「マロニエ会」海外留学奨学金制度をご存知ですか？

この制度を利用し、田宮愛さんが五月、カリフォルニア州立大学大学院フロン校の言語療法学科修士課程を修了してアメリカの言語聴覚士の免許(CFSLP)を取得しました。同様に、ニュージーランドのオタゴ大学大学院に留学した宮森隆行さんは、八月に修士課程を修了しました。ふたりから、今後の目標や留学に対するアドバイスをお寄せいただきました。

田宮 愛さん

本学言語聴覚障害(現言語聴覚)学科卒、同大学院修士課程修了



●学位授与式でスーパーバイザーと共に喜ぶ田宮さん

英語もろくにできない状態でアメリカに来て五年弱、大学院に入ってから二年半、生懸命の毎日でした。課題に追われ、周りが見えなくなり自分を失いそうになった二年前。すばらしい同期生、先生方に支えられてなんとか乗り切れました。国際医療福祉大学の奨学金、友人、恩師、家族にたくさん助けていただきました。国家試験に合格し、就職先も得て、修士課程を修了することができました。

私が初めて海外に行ったのは、大学のオンラインリサーチで。軽い気持ちで参加しましたが、言葉や文化の違い、医療福祉制度の違いを学びながら強い刺激を受けたのを覚えています。海外留学に興味のある在学生はぜひ大学の海外研修に参加されてみてはいかがでしょうか。研修先に医療先進国が加わると、目標の幅が広がります。

こちらの大学院受験には、英語の試験と大学時の成績が重要です。留学に何が必要になるかは事前に知っておくと便利です。なにより、お金がかかります。同窓会の奨学金制度はぜひ利用されるとよいと思います。

今後は、両国の養成校を出て資格を取得し、両国の臨床経験がある私にしかできないことをしたいと思っています。言語障害についての啓蒙活動、日本とアメリカの言語療法、言語療法士間の情報交換、そして、これから大学院留学をめざす人を応援したいと考えています。まずは仕事に慣れて言語療法士のフェロシッブを一年間で終えることが当面の目標です。私は言語療法の仕事が大好きです。言葉や住む場所が違っても、思いを伝えたり理解したりすること、それから、おいしく安全に食べることを支える仕事のやりがいには変わりません。これからも、英語、言語療法、そして日本語を学び続けていきたいと思っています。

海外留学をめざす同窓生の皆さんへ

アメリカでの仕事の内容や留学の内容など、田宮さんに質問がある卒業生は同窓会までご連絡ください。言語療法だけでなく、理学療法や作業療法に関することも田宮さんに相談のついでにできます。詳しくは同窓会HPをご確認ください。
<http://maronie.iuhw.ac.jp/>

宮森 隆行さん

本学理学療法学科卒
小田原保健医療学部理学療法学科講師

大学院留学のきっかけは、二〇〇八年にフィンランドで開催されたEuropean College of Sports Scienceという学会に参加したことでした。当時、私は順天堂大学スポーツ健康科学部の助手として主にサッカー選手の障害予防やコンディショニングに関する臨床と研究をしていました。初めて参加したこの学会で、当時在籍していた国際医療福祉大学大学院修士課程の研究報告をしました。しかし、全く英語を話せなかつたので質疑応答で大変苦労しました。また、理学療法分野において、将来的にグローバルに捉える必要性を痛感し、世界の理学療法教育に興味を持ち始めたのもこの頃でした。帰国後すぐに、当時関心のあった徒手療法の臨床系大学院を探しました。その後、妻と子供、一人を連れて留学し、深夜の清掃アルバイトをしながら約二年間語学学校へ通い、ようやくオタゴ大学の臨床系大学院(整形徒手療法)に入学できました。まず半年間は、解剖学実習や講義、また徒手療法の実技練習やそれらに関するエッセイの提出などを繰り返しました。その後の半年間は、



●オタゴ大学附属スポーツ理学療法クリニックにて

大学院附属のクリニックで臨床実習を行い、前期で履修した内容を実際の患者様への評価・治療を通して応用していくことを繰り返して学習しました。一番驚いたことは、医療従事者の社会的認知度の高さです。日本では通常、医師が行う診断をこちらでは理学療法士が担当することもあります。初回の患者様は問診・検査・評価に一時間弱をかけて確定診断を行い、その診断結果をもとに医療保険を申請します。そのため、海外の学部レベルの理学療法教育は評価・診断学に重点が置かれています。そして、大学院は主に治療技術の向上に主眼を置いた臨床アドバンスコースになり、講義や実技練習、臨床実習を通して骨関節系疾患に関する体系化された包括的な理学療法アプローチを学びます。

昨年未帰国後、地元神奈川県川崎市の整形外科クリニックで臨床を経験し、本年四月より小田原保健医療学部理学療法学科の教員として勤務しています。今後は、スポーツおよび骨関節系理学療法分野において将来的にグローバルに活躍できる理学療法士が増員できるように、臨床・教育・研究分野で世界とのアンテナを張りながら活動したいと思っています。大学院留学に興味をお持ちの方は是非、その思いを行動に移してください。困難もありますが、医療従事者として人間として成長できるチャンスが広がっています。大学院留学は自分ひとりの決断と努力だけでなく、家族、友人、上司、職場の仲間などの支えが必要です。同窓会「マロニエ会」海外留学奨学金制度は、そんな皆さんのチャレンジを後押ししてくれると思います。

1年生の新生活レポート ～私たちの第一歩!～



今回は1年生のアパートから新生活をレポートします。ひとり暮らしと大学の勉強…初めての経験が重なるなかで、みんな、たくましく大学生活をスタートさせていました。友だちのこと、勉強のこと、さらには、自慢のレシピも紹介してくれました。

姉も本学の卒業生。地元で言語聴覚士として働いています。 取材日:7月30日



保健医療学部 作業療法学科1年 (左から)

新妻凌さん

福島県立いわき光洋高校出身

中津川泰生さん★

宮城県古川高校出身

関聖史さん

山形県 日本大学山形高校出身

木村修豪さん

群馬県立高崎北高校出身

中津川さんの部屋はリビングがゆったり13畳。野球部の先輩やアルバイト先がいっしょの先輩がもう何度も遊びにきました。片道20分の自転車通学は行きに上り坂が2か所。夏は汗びっしょりです。

姉がこちらで暮らしていたときに、親といっしょに姉のアパートに来たことがあったので、大田原の様子は少しだけ知っていました。

ひとり暮らしも、料理は初めから抵抗はありませんでしたが、光熱費の

誕生日に友だちからもらった手書きメッセージ入りのTシャツ。

感覚がわからず、どのくらい使っているのかわかりませんでした。

大学の勉強は、内容もやり方も初めてのことでばかりで、まだとまどっています。

そんな状態なので、他の人が勉強しているとあせったりもします。作業療法と理学療法の違いについて、大学に入ってからわかってきた部分もありますが、これまで頭で想像していたことが、少しずつ現実になってきている感じがしています。



もちろん、国家試験に向けた勉強の方法も気がかりです。いざという時、力になってくれる先輩たちとは、これからずっといろいろな形で交流していきたいと思います。

おすすめパスタは塩こんぶがポイント!



刻んだニンニクと鷹の爪をオリーブオイルで炒める。香りが出たらベーコンを軽く炒めて、茹でたスパゲティをあえる。途中で水分が少なくなってきたら、スパゲティを茹でた湯をスプーンで少しづつ足すと、いっしょに塩味も加わります。最後に市販の「きざみ塩こんぶ」を入れてできあがり。パジルを振って仕上げます。

家に帰ったら食べたいものは、何と言っても母の手料理です。(本当に何でもおいしい)。

それと、我が家では、ビーフハヤシライスは必ず父が作ります。



近くに友だちがいるから、もう、ひとり暮らしを楽しんでいます! 取材日:7月11日



保健医療学部 視機能療法学科1年

和田菜々子さん(左)★

静岡県 日本大学三島高校出身

佐竹可子さん(右)

青森県立八戸北高校出身

和田さんが住んでいるのは大田原市街中心部のセキュリティのしっかりしたアパート。近くの同級生、佐竹さんが取材に協力してくれました。買物は自転車ですどこでもいける生活至便な場所。ふたりともバス通学です。

ひとり暮らしにはすんなり入れました。家にいるときからあたりまえのように手伝っていたので、料理にも特に抵抗はありませんでした。

わたしたちは、小さいころから眼科に通うことが多かったため、自然と視能訓練士をめざすようになっていました。でも、

手放せない分身を持っている人も多いはず。和田さんの場合は高校1年生のときから使っているカエルのペンケース。

高校では、先生も友だちも視能訓練士のことを知らなかったのが残念。

勉強は、今はまだ高校の復習が主体です。たまに専門的なことが出てくると、大学で勉強していることを実感して、もっといろいろなことを知りたいと思います。でも、先輩からは、「今のうちに遊んでおいたほうがいいよ」と言われています。

遊ぶのはたいていお互いの家。夜、お風呂をすませてから5人くらい集って、失敗のないギョーザ鍋を囲むことが多いです。宇都宮には1回行ったけど、まだ那須には行ってないんです。



今日のふたりの合作メニューはこれ!



撮影:和田さん

●ハンバーグ

合挽き肉、たまねぎのみじん切り(炒めておく)、パン粉、塩コショウ、それと、おろしたじゃがいもをこねて、形を整えて焼く。ソースは、フライパンで醤油、みりん、料理酒を軽く煮詰めて和風に。

●トマトスープ

カットトマト缶と水をベースに、具はたまねぎとベーコンのみじん切り。味付けはコンソメ、にんにく、オリーブオイル。パセリの緑でアクセントを。

●サラダ

ゆでたじゃがいもをつぶして塩コショウを合わせる。にんじんのグラッセは軽く下茹でしたにんじんをバターと砂糖で煮詰める。キャベツときゅうりはお好みのドレッシングで。

家に帰ったら食べたいものは、和田さん:母の煮物(肉じゃがとか)と調理師だった祖母の料理 佐竹さん:母の卵焼き!

